

テ降ラシム、徳川氏長重ノ封ヲ收メ、全州ヲ以テ利長ニ賜ヒ、金澤ニ治シ能登越中ヲ兼領シ、世襲其支封ヲ大聖寺トス、利長ノ嗣利常第三子利治王政革新、改テ縣トシ、既ニシテ大聖寺ヲ金澤縣ニ併セ、又改テ石川縣ト稱ス、

〔先代舊事本紀十〕賀我國造

泊瀬朝倉朝略御代、三尾君祖石撞別命四世孫大兄彦君定賜國造、難波朝德御代、隸越前國、

加宜國造

難波高津朝德御世、能登國造同祖素都乃奈美留命定賜國造、

〔國造本紀考三〕加宜は考へ得ず、（中略）もしくは山城を山背、武邪志を胸刺とあるが如く、加宜は賀我の重覆にて、它の傳文を誤寫し、にはあらざるが、

〔先代舊事本紀十〕江沼國造

柴垣朝正御世、蘇我臣同祖武内宿禰四世孫志波勝足尼定賜國造、

〔類聚三代格五〕太政官謹奏

割越前國江沼加賀二郡爲加賀國事准中

守一人、掾一人、大目一人、少目一人、史生三人、博士一人、醫師一人、

右得彼國守從四位下紀朝臣末成等解僞、加賀郡遠去國府往還不便、雪零風起難苦殊甚、加以途路之中有四大川、每遇洪水經日難涉、人馬阻絕動口擁滯、又郡司鄉長任意侵漁、民懷冤屈、路遠無訴、不堪深酷、逃散者衆、又部内闊遠、多煩巡檢、官舍之損、農桑之意、莫不由此、伏請別建、件國名曰加賀國者、夫調琴瑟者終待改張之功、行政化者必資權變之道、彼越前國民俗凋弊、非恩何息、境内闊遠、本號難治、臣等商量所申、合宜、伏聽天裁、謹以申聞、謹奏聞、

弘仁十四年二月三日

太政官符